

九州鉄道記念館

鉄道愛好家の夢

旧九州鉄道本社は現在、鉄道発展の歴史にまつわる展示品と体験型展示物を組み合わせた博物館となっている。廃車になった機関車や、プロフェッショナルな仕様の列車運行シミュレーターまで展示されている。

列車の中で

後に移転され「門司港駅」と改名された門司駅の当初の位置に、ミュージアムの入口がある。また、九州本島の全ての線路の距離を測定した場所であることを示す「ゼロマイル」の標示もある。この屋外エリアは、機関車展示と子供達が数台のミニ機関車を操作し 130 メートルの線路を走らせることのできるミニチュア鉄道を組み合わせている。

廃車になった機関車や列車車両の一式は、入口付近の線路に沿って展示されている。展示のラインナップは、1920 年代から 1970 年代まで、九州を横断して貨物を運んでいた最初の国内量産蒸気機関車のひとつである SL9600 から始まる。さらにその先には、関門トンネルを通過した最初の機関車である EF10 35 がある。このほか、ディーゼル機関車（キハ 07 41）や、2000 年代まで使用されていた寝台車（クハネ 581-8）などがある。

煉瓦の様式

1891 年に竣工されたこの建物は、煉瓦積みの様式が混在する珍しいものだ。下層の煉瓦積みは英国式と呼ばれるもので、両端が隣り合う並びと側面が隣り合う並びの層を交互に敷き詰めている。上部の煉瓦はフランドル積みで、小口ー長手ー小口の順で煉瓦を敷き詰めたものだ。耐震性により優れているため、英国式のほうが日本ではより好まれた。

歴史の体験

博物館の展示の中には、いくつか体験型展示物もある。チケット売り場のすぐ先には、クレストリーの屋根を持つ 1909 年製の客車がある。車の中には、時代錯誤な畳の座席と白熱灯の間に通路がある。その客車の近くには、博物館で最も人気のある展示のひとつ、811 型電車の本物の制御盤を使用した運転シミュレーターがある。来館者は 3 段階の難易度から自分の列車操縦技術を試すことができる。

また、1 階には九州をモチーフにした大型鉄道模型があり、門司港や博多などのミニチュア駅がある。

業界の変化の影響

2 階の壁一面の年表や様々な時代における鉄道技術についての展示に見られるように、変化は展示物の共通のテーマである。電信から電話への変遷、切符のデザインの変化、車掌が着る制服の変化などといった展示が見られる。あるケースには、長年にわたって九州各地の列車や駅で提供されてきたさまざまなスタイルの弁当が展示されている。2 階には、企画展示のためのスペースや、鉄道輸送に関する書籍、新聞、その他の資料を集めた小さな図書館もある。